

第53回神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回の「氾濫」は詰パラ通巻777号記念。「7」にちなんだ作品の特集です。

①協力詰 21手

神無七郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 角

- 68角、88玉、79角、77玉、
- 68角、88玉、77角、同玉、
- 66銀、88玉、77銀、79玉、

- 88銀、78玉、87銀、77玉、
- 79香、78金、同銀、88玉、
- 89金迄21手。

【協力詰】先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

中澤宣幸―77の地点が重要なポイントでした。

田中颯―11手目までは必然の手順が続き、角か香のどちらを取りに行くか。

☆まず角で77歩を消去。すると角自身が邪魔になるので、角も消去します。ここからの主役は銀。12手目99玉（97角を狙う）か79玉（87香を狙う）の2択が最後の関門です。藤沢英紀―8手目局面も含めると「七」も3回。

☆初形「七」。盤面7色。手数7+7+7+7の記念作。多くの方に楽しんでいただけたようで何よりです。

②キルケ協力自玉詰 14手
青木裕一

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

攻方持駒 飛
受方持駒 なし

- 17飛、25龍／27歩、26歩、
- 35龍／37歩、36歩、45龍／
- 47歩、46歩、55龍／57歩、
- 56歩、65龍／67歩、66歩、
- 75龍／77歩、76歩、85龍／
- 87歩迄14手。

【キルケ】駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される

【協力自玉詰】先後協力して最短路線で攻方玉を詰める。

一乗谷酔象―七連続の歩下げ。最終手は紐付きの8筋で決める。

☆本作にはキルケの代表的な手筋が2つ登場します。一つは攻方の駒を復活させて合駒代わりに使う「魔女返し」と呼ばれる手筋。これを7回連続で繰り返すのが本作の主題です。もう一つは最終手。85龍を取ると、復活した82飛が王手になります。自分で自分に紐をつける「影の利き」とも呼ばれる手筋です。

☆なお、受方持駒制限がないと2手目同龍／28飛以下12手の早詰。やや難しい手順ですが、ぜひご研究を。真一―無駄なく美しい。☆本作は素材にして完成品。原石のまま輝く宝石です。

③協力詰 7手
神無太郎

			王	王				

31 G、23 飛、21 G、12 玉、
34 G、22 飛、23 G 打迄7手。

【Grasshopper (G)】縦横・

斜めに駒を1枚跳び越し、
直後の地点に着地する。

占魚亭―2手目の第一感は
22 飛でした。

☆本作は7手詰。2手目は跳
躍台を動かす「開き応手」
の受けですが、移動先が問
題。22 飛ではなく、一旦 23
飛と寄り道するのが好手
で、多くの解答者が第一感
を外されました。

福原徹彦―解図当初はGで

Gを飛び越えるという発想
に至らずに苦戦しました。
☆重ね打ちはGの代表的手
筋。跳躍台のGを取っても、
もう1枚のGの利きが残
ります。この性質を利用し
て横と斜めにGの組を作
り、22 飛と連携して詰めま
す。G 4枚だけでは玉を包
囲できないので、相手の飛
にも協力して貰うわけ
です。なお、5手目 34 Gは限
定打。遠くに打つと最終手
に対し34合が可能です。
中澤宣幸(抜粋)―「打」の
表記が必要かどうか分
らないので3手目にも一
応つけました。

☆本作で「打」が必要なのは
最後だけですが、迷ったら
「打」を付けると無難です。

④打歩協力自玉詰 14手
神無三郎

持駒 飛角金銀桂香歩

17 金、同銀成、29 香、28 飛、
27 歩、同全、38 桂、同飛生、
35 銀、同飛成、59 角、同香成、
56 飛、46 歩迄14手。
【打歩】打歩以外の詰を失敗
とする。

原田清夷―35 龍を出現させ
ればいいんだと気づいたら
一気に逆算できました。7
種持駒、最短手数で実現さ
せたのは素晴らしい。

☆打歩協力自玉詰は詰上り

が限られます。歩合を取れ
ない手段を考えると最終
4手は「59 角、同香成、56
飛、46 歩」しかありません。
問題は46歩をどうやって
支えるか。

弘光弘―1七同銀成、2七
同成銀で飛が動けるよう
にすることがおもしろい。

☆35 龍を発生させて46に利
かすのがその答え。そのた
め28 銀を動かしますが、金
を先に捨てて銀を温存す
ることと、28 銀を成ること
が肝要です。成銀で27に蓋
をすれば飛を動かせます。
福原徹彦―この手順が打順
前後も成生非限定もなく
成立しているのはすごい。
☆同感。単なる条件作ではな
く、手順も充実しています。

⑤ 天使詰 77手
一乗谷酔象

6	5	4	3	2	1
			●	角	龍
			●	糸	皇
			●	●	王
				●	●

双方持駒 なし

22 龍、同玉、12 角成、同玉、
13 歩、11 玉、12 歩生、21 玉、
11 歩成、22 玉、21 と、12 玉、
11 と、同玉、13 香、12 飛、
同香生、21 玉、11 香成、22 玉、
21 杏、12 玉、11 杏、同玉、
13 飛、12 角、同飛生、21 玉、
22 飛生、11 玉、21 飛生、12 玉、
11 飛生、22 玉、21 飛生、13 玉、
11 飛生、12 香、22 角、同玉、
12 飛生、21 玉、11 飛生、22 玉、
21 飛生、12 玉、22 飛生、11 玉、
13 香、12 歩、同飛生、21 玉、

11 飛生、22 玉、21 飛生、13 玉、
11 飛生、22 玉、21 飛成、13 玉、
11 龍、12 角、同龍、同玉、
13 歩、11 玉、12 歩生、21 玉、
11 歩成、22 玉、21 と、13 玉、
22 角、12 玉、11 角成、13 玉、
22 馬迄 77 手。

【天使詰（最長協力詰）】先
後協力して最長手数で受
方玉を詰める。ただし手順
中に同一局面があつては
ならない。

【●】不透過・不可侵の領域
須川卓二―5マス5枚の駒
で77手って出来るとは思
わなかつた。同一局面なけ
ればいいけど…。

駒井信久―生と成で手を稼
げることに気付いて達成で
きた。同一局面がなかつた
か判定するのが少し難しい。
☆手数稼ぎの主役は飛。 25

手目から63手目まで飛が
盤上で粘ります。合駒の順
番も重要。角で合駒請求で
きない形なので先に角合
し、後で香に変換して手数
を稼ぎます。収束は角で詰
めるので、逆に歩合を先に
角合を後にします。加えて

成・生の違いで手数を稼い
だり、遠回りをしたり等、
細かい工夫を積み重ね、不
可能にも思える長手数を
実現します。

藤沢英紀―同一局面を
「○○」の関数でチェック。
4手不足で困ったが50手
目に先に歩合で解決。

☆誤解の多くは20数手や30
数手で既出の局面に戻つ
ていました。目視に頼らな
い工夫も本作の解図には
必要です。

⑥ 最悪詰 51手
真T

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			杏		獅			
					王	糸		
						王	糸	
								桂
飛			杏					王
			銀	王		桂	香	王
					糸	と		王
			銀					

持駒 なし

95 飛、85 歩、同飛、75 角、
同飛、65 飛、同飛、55 桂、
同飛、45 香、同飛、35 金打、
同飛、25 銀、同飛、同歩、
33 角、同歩、26 銀、同歩、
25 金、同角、14 飛、同玉、
15 香、23 玉、35 桂、32 玉、
24 桂、同金、23 桂成、43 玉、
44 歩、53 玉、45 桂、63 玉、
62 杏、同玉、53 桂成、同玉、
43 歩成、同玉、33 圭、同金、

44歩、32玉、43歩成、21玉、
32と、同金、12歩成迄51手。

〔主な変化〕

(1) 11手目35飛は同金、26角、

同金、45飛、35金、同飛、

25銀、同飛、同歩、24銀、

16玉、28桂、同金、15金迄。

(2) 13手目25飛は同金上、

26角、同金直以下(1)と同様。

(3) 17手目24銀は16玉、28桂、

同金、26金、同歩、25角、

同角、14飛、15合、同飛迄。

(4) 17手目26金は同歩、55飛、

25金打、同飛、同角、14金、

同角、24銀、16玉、28桂、

同と、17香、同玉、28と、

同玉、39角、19玉、28角、

同玉、29歩、38玉、39歩、

49玉、58銀、59玉、68銀迄。

(5) 17手目26銀は同歩で、

(a) 33角は24銀、55飛、25飛、

同飛、同金、24角成、同金、

55飛、25金、同飛、同角、
14金、同角、25金、同角、
24銀、16玉以下49手。

(b) 25金は同金、24角、16玉、

28桂、同と、17香、同玉、

28と、同玉、29飛、37玉、

38歩、同玉、39飛、47玉、

37飛、同玉、38歩、28玉、

46角、39玉、28角、49玉、

(6) 21手目25飛は同角、14金、

16玉、15金、同玉、16香、

24玉、36桂、23玉、24歩、

32玉、23歩成、43玉、33と、

同金上、44歩、32玉、24桂、

同金寄、43歩成、21玉、32と、

同金、12歩成迄。

〔主な紛れ〕

(1) 4手目75桂は同飛、55香、

同飛、35金打、同飛、25金、

同飛、同歩、26金、同歩、

25金、16玉、15金、同玉、

16香、24玉、36桂、同角、
25歩、23玉、24歩、同玉、
26香、25歩、同香、35玉、

46杏、26玉、27歩、同と、

36杏、16玉、26杏、同玉、

27と、同玉、28歩、38玉、

39歩、49玉、16角、38香、

同角、59玉、68銀引、69玉、

47角、58合、同角迄53手。

(2) 8手目55に桂以外の合駒

をすると、45飛、16玉(合

駒は26角以下)、15飛、同

玉、26角、16玉で不詰。

(3) 10手目45金打は同飛、25

香(25を空けると25金以下

不詰)、同飛、同歩、33角、

24銀、同角成以下81手。

【最悪詰】攻方はなるべく相

手玉が詰まないように王

手し、受方はなるべく早く

自玉が詰むように応じる。

☆七種連合。夢のような作品

の登場です。まず作者以外
の唯一の正解者の感想を。

須川卓二―これはヤマ張って

連続7種合した場面から考

え始めましたがそこから

大変でした。次に合駒順を

考えましたが変化の多さに

ギブアップ寸前。全部読み

きれていませんが正解なら

いいな。とにかく7種連合

の実現を目にして私も興奮

しています。いやゝ凄い。

☆初手は95飛の一手。受方

には各種1枚以上の持駒

があり、七種連合の予感に

心が躍ります。でも大半の

解答者は分厚い変化・紛れ

に阻まれ、作意に到達でき

ませんでした。

作者―テーマは7種連合。募

集要項に7種合と7連続

合とあつたので合わせてみ

ました。成香は初形で玉方が香を2枚以上持っている。余詰になると余詰になるため、合駒制限です。(金や銀も2枚以上持っている)と余詰が生じます。

☆本作を理解するには「なぜ7種合するのか」「合駒はなぜこの順なのか」という2つの疑問への回答が必要です。

☆前者は明快。攻方に駒一式を渡さないと言わないからです。とはいえ持駒が七種なら詰み、それ以外なら不詰(または手数超過)となる構図を成立させるには高度な創作力が必要です。☆次は合駒の順序です。まず、銀を早く渡すと26銀で不詰なので、受方は銀合を最後にします。ただ、角も銀

と同様に不詰の危険をは

らみまます。そこで受方は「角と飛をセットで渡す」という秘策を用います。65

飛の逆王手で飛を強制的に取らせれば、角を渡しても不詰になりません。でも

これだけでは不十分です。攻方は45飛で、渡された飛

を処分しようとしています。その対策が55桂の逆王手。

続けて45合として、攻方に45飛の余地を与えません。

☆これで角を渡すことによる不詰は回避しましたが、油断は禁物。45の合駒が金

だと、13手目に25金とさ

れて詰みません。従って45合は香に限定(45歩は二

歩)。歩合は85になり、一歩

角飛桂香金銀」の合駒順が決まります。

☆このように七種連合の仕

組みは論理的ですが、それを支える変化・紛れは膨大です。特に「金桂香歩」

の合駒をする紛れは最も強力で、主な紛れ(1)に示した通り53手で詰みます。ま

た、変化(5)(a)は49手。作意の51手は紙一重で成立

するぎりぎりの手数です。最悪詰に通曉し、自在に扱

えねば、こんなに大胆な作意設定はできません。

☆作者からは本作誕生の意外なきっかけも伺いました

が、ここでは割愛します。傑作の誕生に立ち会えた

ことを光栄に思います。

【総評】

堀田雅裕―冬休みの12/30

に挑戦。思いのほか解けたし、どの問題も面白い手順

だった。

☆2日で4題正解はお見事。

次回はぜひ時間に余裕を持って挑戦してください。

【各題の正・誤・無解者数】

① 26 1 1 ② 16 0 12 ③ 13 2 13

④ 15 2 11 ⑤ 5 0 23 ⑥ 2 0 26

【解答成績】(太字5名当選)

【全題正解】須川卓二

【5題】一乗谷酔象、駒井信

久、真T、藤沢英紀

【4題】岩本修、川端潤、占

魚亭、中澤宣幸、福原徹彦、

堀田雅裕、森美憲、和田裕之

【3題】弘光弘

【2題】鈴木彊、田中孝海、

原田清実、山本強志

【1題】赤井秀雄、新井要太郎、

武田静山、竹中健一、田中颯、

中山芳樹、原岡望、山口勇

【0題又はコメントのみ】

市原誠、藤井美大